

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大鹿歌舞伎体感伝承活用事業
事業主体 (連絡先)	大鹿歌舞伎保存会 大鹿村教育委員会事務局0265-39-21000
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,334,920 円

事業内容

- 1 用具の新調として歌舞伎衣装、歌舞伎かつら、小道具槍を購入した。
- 2 活用事業として、令和元年9月29日大鹿中学歌舞伎公演を行った。ワークショップを令和元年8月6日、令和2年3月8日、2回の着付け講習会を行った。
- 3 情報発信制作として8月から6ヶ月間高速バスラッピングの掲示を行った。



【大鹿中学歌舞伎公演】

【目標・ねらい】

- ①重文大鹿歌舞伎の子供たちへのさらなる伝承活動
- ②大鹿歌舞伎の地域振興への活用
- ③大鹿歌舞伎の魅力発信

事業効果

- ①用具の新調により歌舞伎衣装、歌舞伎かつら、小道具の槍が購入でき歌舞伎上演の充実が図られた。
- ②大鹿小中学校への歌舞伎学習の取組は大鹿歌舞伎保存会の全面的な協力により小学校では令和元年12月より令和2年2月まで20h、大鹿中学では平成31年4月から9月まで72h、歌舞伎習得のための伝承活動の稽古を行い、特に中学の公演は多くの来館者が詰めかけて盛況となった。(小学生の歌舞伎教室発表会は新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響を考慮し中止となった。)
- ③高速バスのラッピングの6ヶ月間の掲示は新宿・名古屋といった大都市間への大鹿歌舞伎のPRにつながった。

※自己評価【 A 】

【理由】

今年度も次世代への伝承活動に充実が見られ、2度の着付け講習会は具体的に着付け作業の工程の確認習得ができ実りあるものとなった。

今後の取り組み

大鹿歌舞伎は平成29年3月に地芝居の分野では初の重要無形民俗文化財に指定されが、その際に文化庁長官より「伝統文化の伝という字は、人に云うと書く。皆さんは伝承活動はもとより文化財の魅力は大いに話し伝えていってほしい。それが伝承につながり伝統となる」との言葉をいただいた。大鹿歌舞伎の歌舞伎上演の機会は春秋の定期公演以外にも、中学校歌舞伎、小学生の歌舞伎教室発表会、毎年持ち回りで開催の三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会、伊那文化会館主催の信州農村歌舞伎祭など地芝居の魅力を発信する場は少なからずある。百聞は一見に如かず、まず見ていただくことが魅力の発信につながる。歌舞伎上演には多くの人手や資金を要し、その継続は並大抵ではないがその努力を惜しまないことが伝承へのカギとなる。平成2年に大鹿村が発祥となった全国地芝居サミット(社団法人全日本郷土芸能協会主催)は現在開催地が定まらず休止状態だが、こうした事業への取り組みも情報発信のツールとなって交流の輪が広がり伝承事業が活性するのは間違いないので取り組んでまいりたい。